

“メタボ”と検査がよく分かる

専門医のはなし⑧



日本臨床検査専門医会

宮崎 彩子

体内に存在する脂質にはコレステロール、中性脂肪、リン脂質などがありますが、脂質は水に溶けにくいので体内ではアポ蛋白と呼ばれる蛋白質の袋のようなものに包まれて血中を流れています。アポ蛋白に包まれた脂質をリポ蛋白と呼びます。リポ蛋白は比重（重さ）によってカイロミクロン、VLDL、LDL、HDLに分けられ、機能や中に含まれる各脂質の割合がそれぞれ違います。

リポ蛋白のひとつ、LDLは肝臓で合成されたコレステロールを体中の細胞に運ぶ働きをしています。血中のコレステロールの約75%はLDLとして存在しています。コレステロールは細胞の膜やホルモンを作る材料となるので、人体にはなくてはならないものです。しかし、多すぎるLDLはコレステロールを血管壁に沈着させ、動脈硬化の原因となります。LDLで脂質を包んでいるアポ蛋白がアポBです。アポBの増加はLDLの増加を意味します。

HDLはLDLとは逆に末梢の組織からコレステロールを肝臓

アポB メタボリックシンドロームと

に運ぶ働きをしています。このためHDLの低下は、動脈硬化を促進します。HDLで脂質を包んでいるのは主にアポA-Iと呼ばれる蛋白質で、アポA-Iの低下はHDLの低下を意味します。

高脂血症の治療にはリポ蛋白に含まれるコレステロール（LDL-コレステロールやHDL-コレステロール）を測定するよりも、リポ蛋白に含まれるアポ蛋白（アポBやアポA-I）を測定した方が、LDLやHDLの増減を敏感に反映するので、よりの確な治療が行えるといわれています。また、アポB/アポA-I比は動脈硬化の指標であり、0.8以上で心筋梗塞や狭心症を発症する危険性が高くなります。最近の研究では、アポB/アポA-I比の上昇は、高血圧・糖尿病・ウエスト周囲計高値と関連があることがわかってきました。

